

チームで取り組む研究データ管理支援： 千葉大学ALC／附属図書館のプロジェクトと人材育成

千葉大学附属図書館 熊崎由衣、千葉大学アカデミック・リンク・センター 國本千裕

2024年度RDUF公開シンポジウム(2024/12/4)

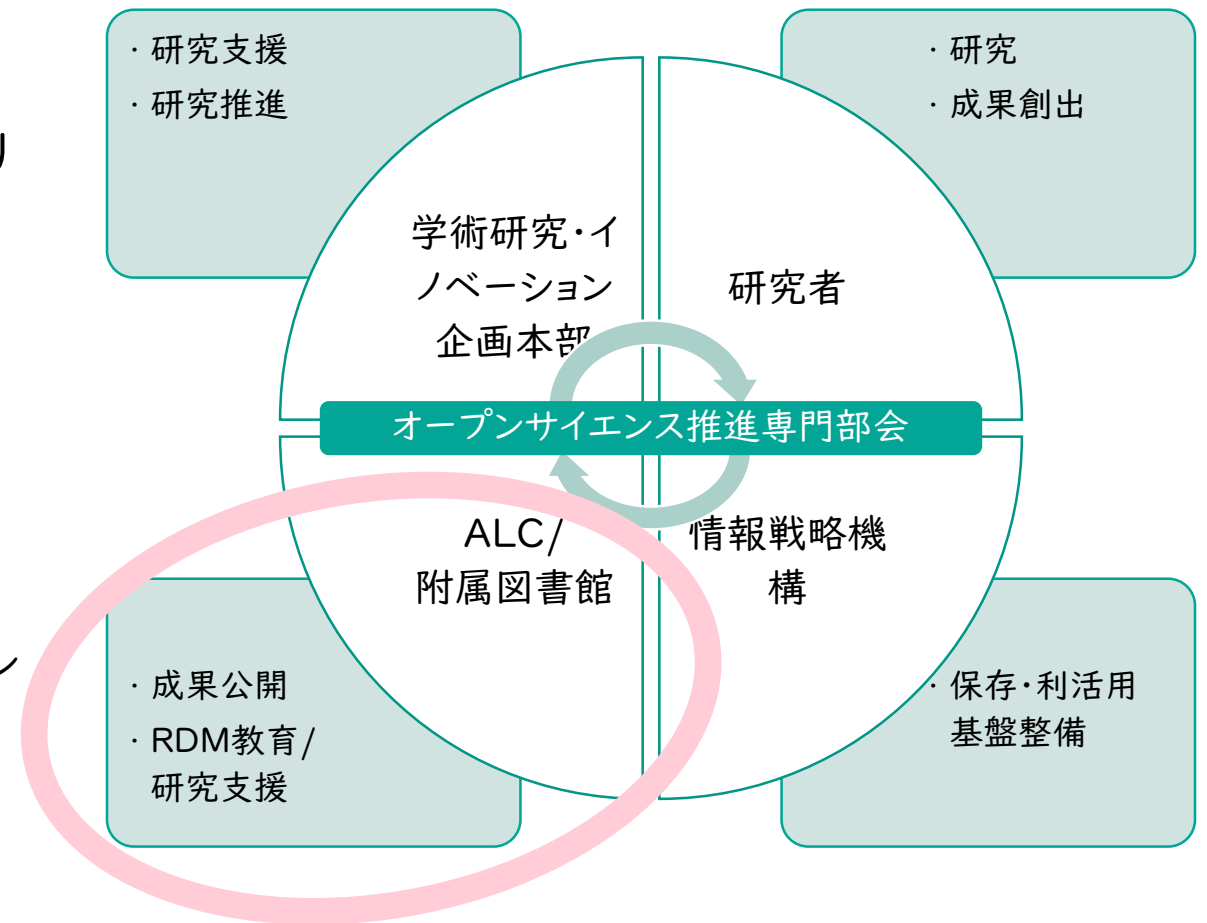


CHIBA UNIVERSITY

Academic Link

研究データ管理に関する本学の状況

- オープンサイエンス推進に向けた検討WG
(2022/6~2023/8)
→「国立大学法人千葉大学研究データポリシー」策定(2023/6)
 - データポリシーの策定、研究データの管理・利活用の環境整備、オープンサイエンス推進のために必要な取り組み・体制
- オープンサイエンス推進専門部会
(2024/8~)
 - 研究データ管理・公開等の基盤整備、オープンサイエンス推進のために必要な取り組み及び体制等の検討など



ALC/附属図書館が注力すること

成果公開

- 機関リポジトリ「[CURATOR](#)」による成果のオープン化



関連して;

「[CURATORにおける即時OA化政策への取り組み](#)」

研究データ管理教育/研究支援

- 教材(コンテンツ)作成・提供
 - 研究支援ポータル「[Encourage YOUR Research Journey!](#)」
 - 研究データ管理・公開支援ポータルの構築(予定)
- 大学院共通教育「研究データの保存・管理・公開の基礎」

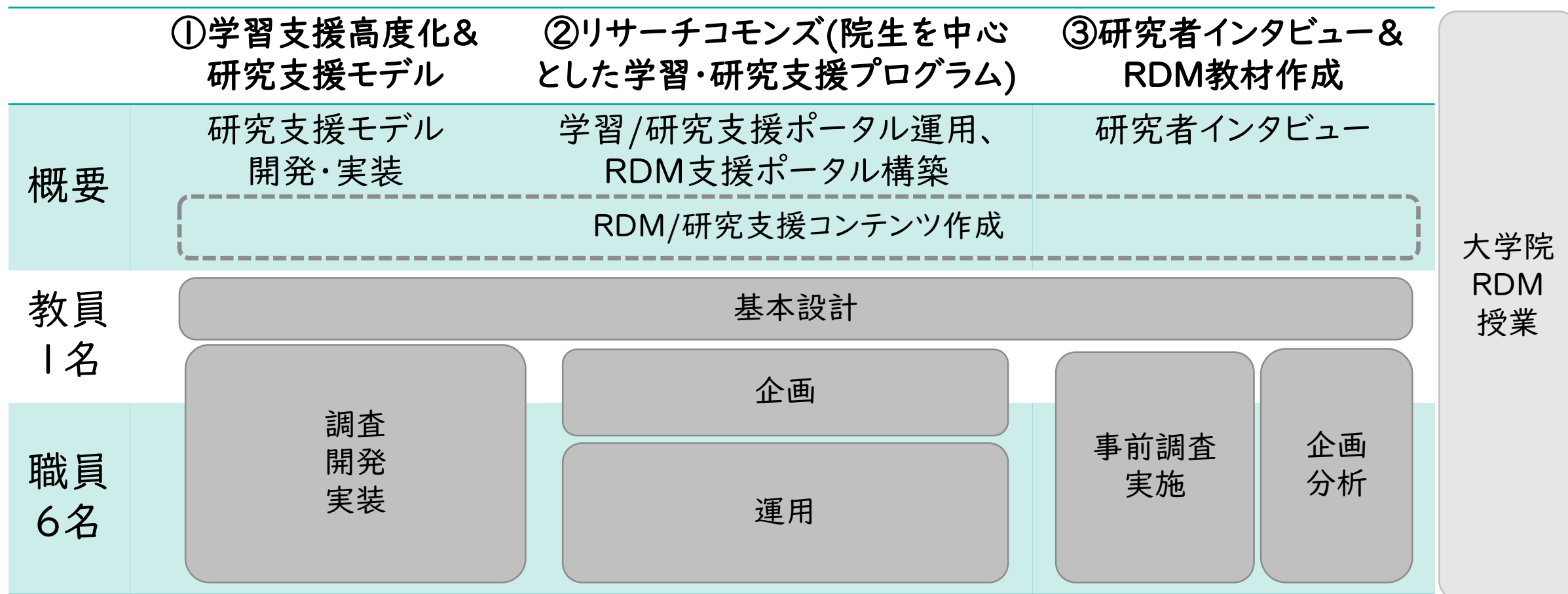
詳しくは;

「[千葉大学における研究データ管理支援教育に関する報告](#)」

研究データ管理教育/研究支援の体制

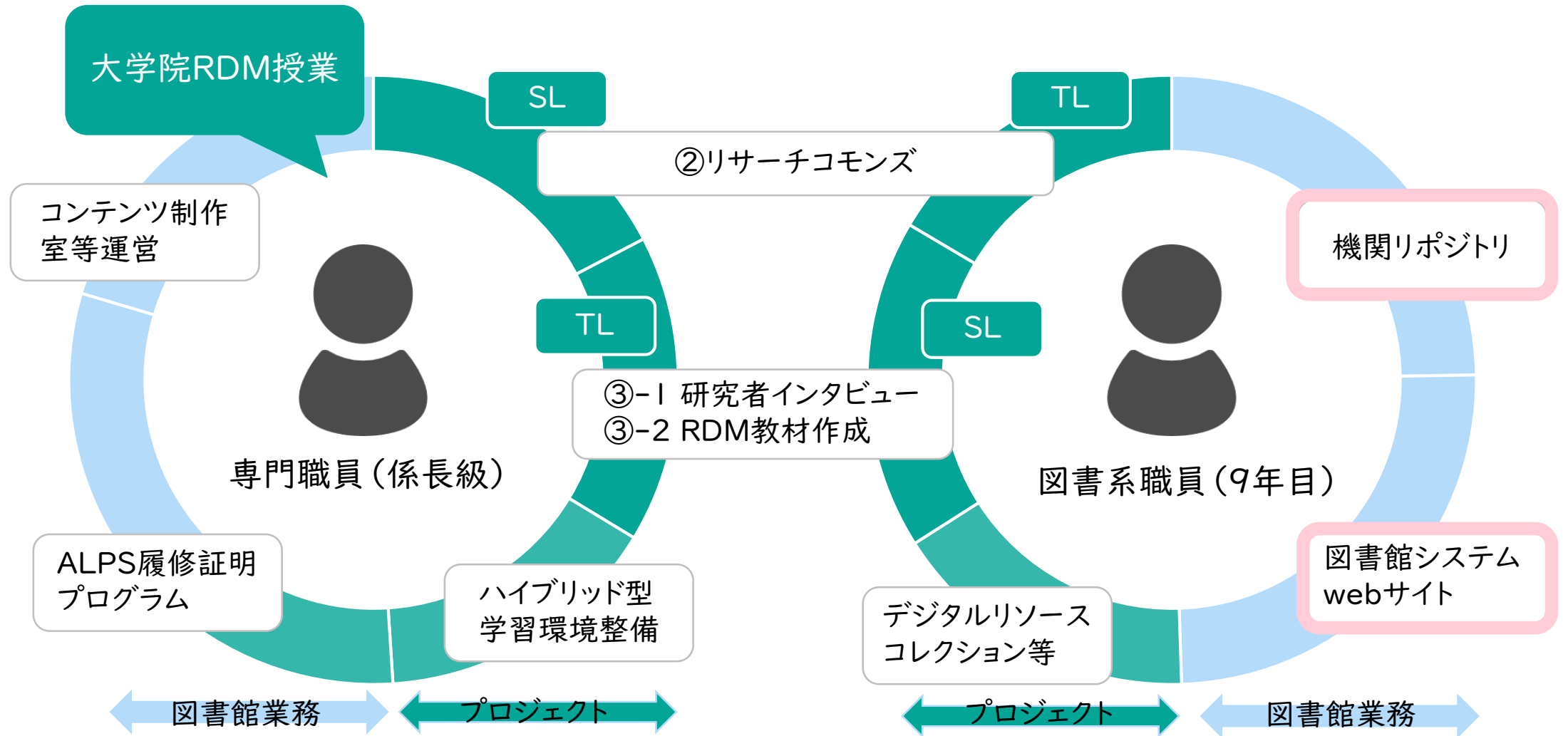
- ALC/附属図書館の**教職協働プロジェクト**において実施
 - アカデミック・リンクのコンセプト/理念に基づき、全学で必要とされている学習支援・大学院生支援を実現する
 - 年度をこえて継続的にサービスを検討・実施し、成果を出す
- プロジェクト体制について
 - 職員の関心・特技、担当業務を考慮する
 - 1人が複数プロジェクトに参加する
 - チームリーダー(TL)とサブリーダー(SL)において職員が主体的に取り組む

プロジェクトにおける教職協働の概況

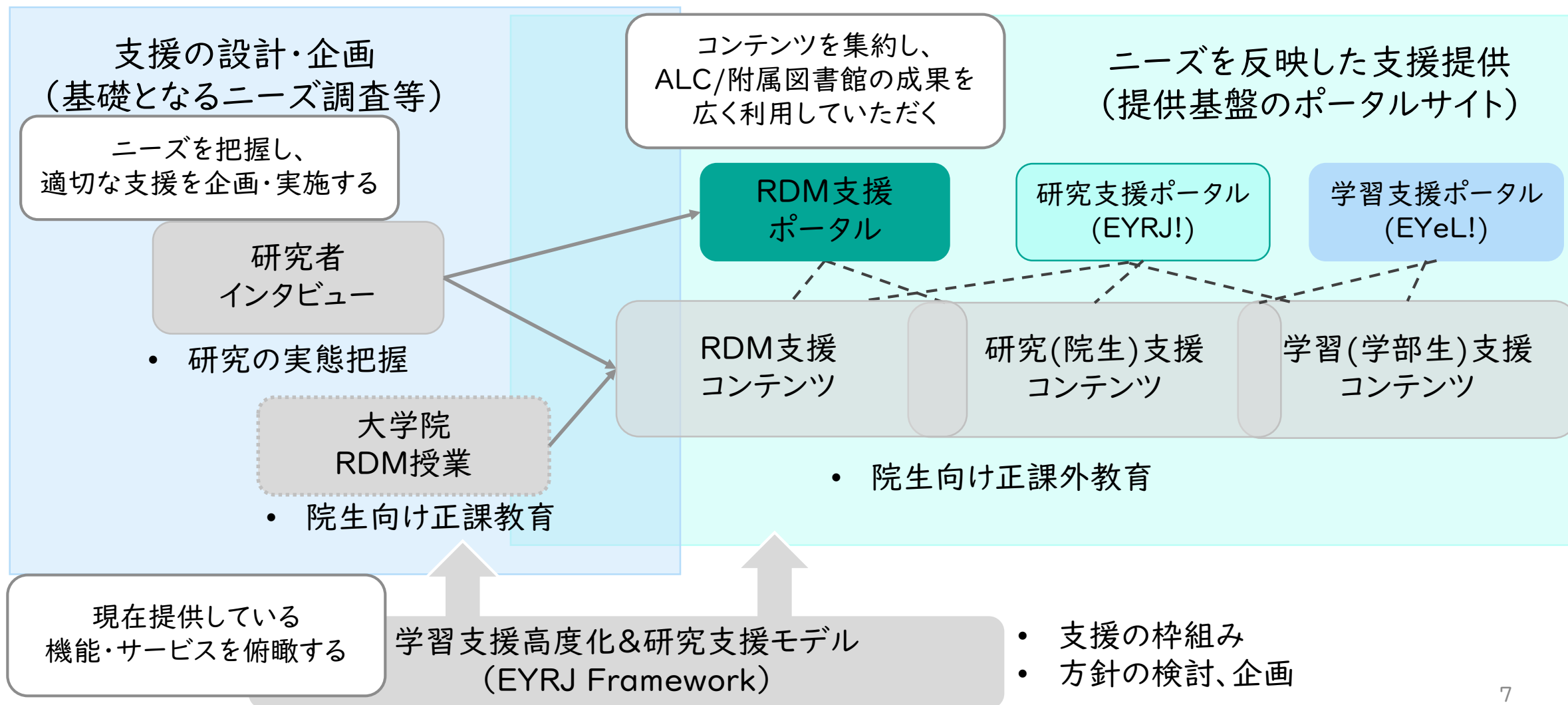


月2回の打ち合わせ + 日常的にGoogleWorkspace(主にChat) でタスクを進める

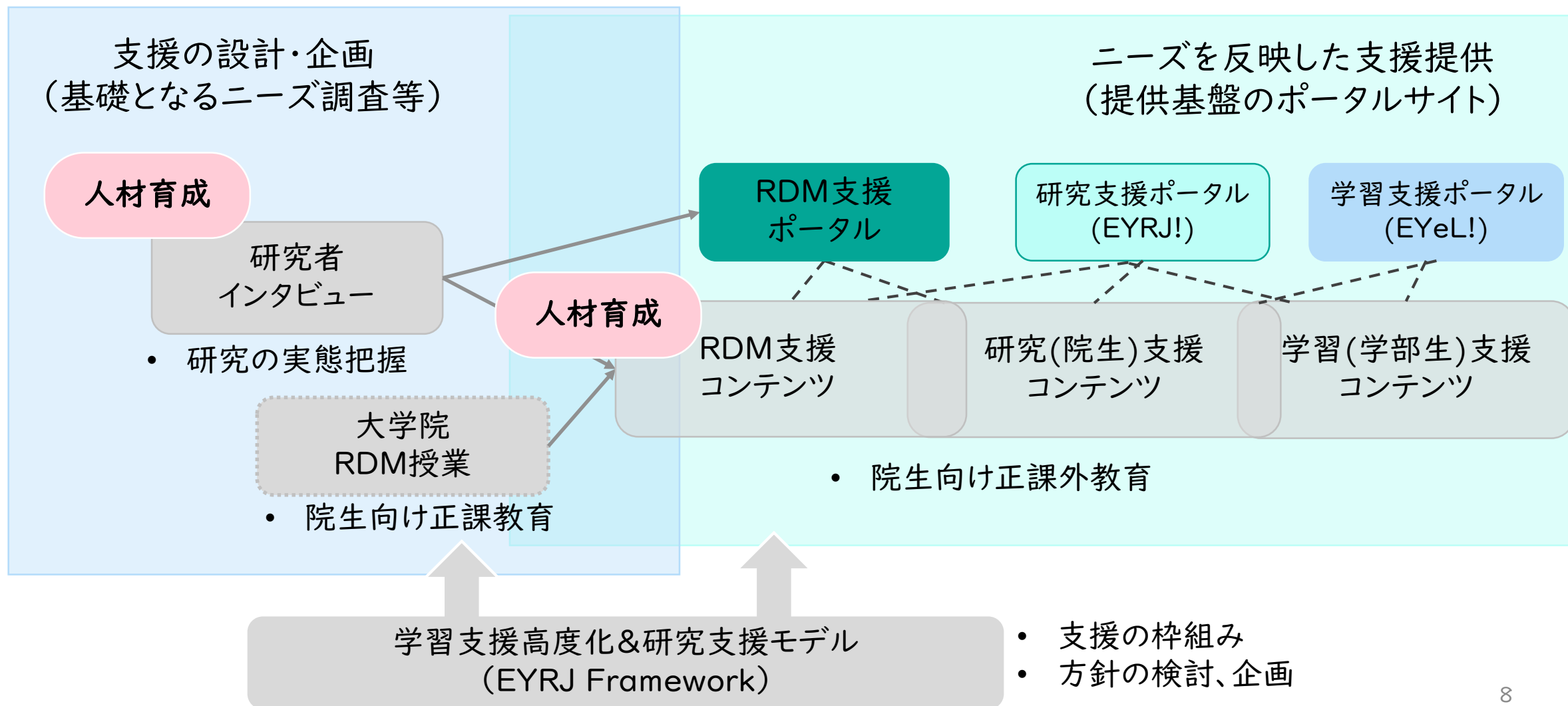
図書館業務とプロジェクトの担当例



研究データ管理教育/研究支援に関するプロジェクトとその関係



研究データ管理教育/研究支援に関するプロジェクトとその関係



プロジェクトの概要とメリット

• ③-1 研究者インタビュー

• 目的

- 本学研究者のニーズを把握し、適切な支援を企画・実施する
- （図書館員が研究支援に関与できることを学内研究者にも知らせる）

• 実施内容

- 学内の研究者に対する事前アンケート、インタビュー、分析
- そのための事前調査（研究室の体制、経歴、主な研究資金、論文/データ公開状況等）

• 支援を行う際のメリット

- 研究者の実際の様子を見聞きできる
- 調査方法を知る、論文やデータを見る
- 利用者からの質問対応にも生かせる！



RDM関連の事例を
チーム内で蓄える

プロジェクトの概要とメリット

• ③-2 RDM/研究支援コンテンツ作成

• 目的

- オープンサイエンスのいまに沿った院生支援を行う
- 大学院生の視点に立ち、行動に沿った教材を作成する

• 実施内容

- 情報収集・既存教材の編集等により、ポータルサイトに掲載するコンテンツを作る
- 1人が1コンテンツを担当して執筆し、全員でコメントしあう

• 支援を行う際のメリット

- 担当コンテンツのテーマを深く学ぶ
- 担当外のテーマに関する知識を得る



RDMについて
チーム内で学び合う

まとめ

- 教職協働プロジェクトチームでRDM/研究支援を行うと？
 - プロジェクトが同時に人材育成に繋がる
 - チームで知識・経験を高められる、補い合える
 - 多様な視点、業務経験をサービスに反映できる
 - メンバーそれぞれの視点、業務経験、知識、技術等を活かせる
- 組織として、持続的によいサービスを提供できる

Coming Soon!



研究支援ポータル(EYRJ!)